

導入事例：株式会社 守谷商會 様

「東京大震災で本社ビル倒壊！」それでも事業継続へ。

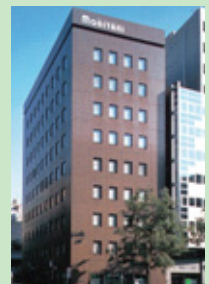
株式会社 守谷商會 様は、国内外に拠点を持ち、105年の長きに渡り業容の拡大を続ける機械総合商社です。世界大戦、関東大震災、米国同時テロ事件、新潟県中越地震なども経験した歴史を踏まえ、このたび東京本社・社屋の完全倒壊を前提にした究極の災害対策を策定。その一環として、多種多様な基幹サーバが稼働する東京のITインフラと同じものを大阪で待機させ、Double-Takeによってデータレプリケーションを行なう大規模な災害対策システムを稼働させました。

株式会社 守谷商會 様

創 業:1901年(明治34年)9月11日
本 社:〒103-8680 東京都中央区八重洲1丁目4番22号
株主資本:345億(2005年3月期)
事業概要:機械総合商社
取扱品目:産業機械・電気電子機械・環境保全機器・計測検査機器等の販売
従業員数:761名(連結)



株式会社 守谷商會 統轄室 情報ネットワークセクション
課長補佐 青柳 誠氏



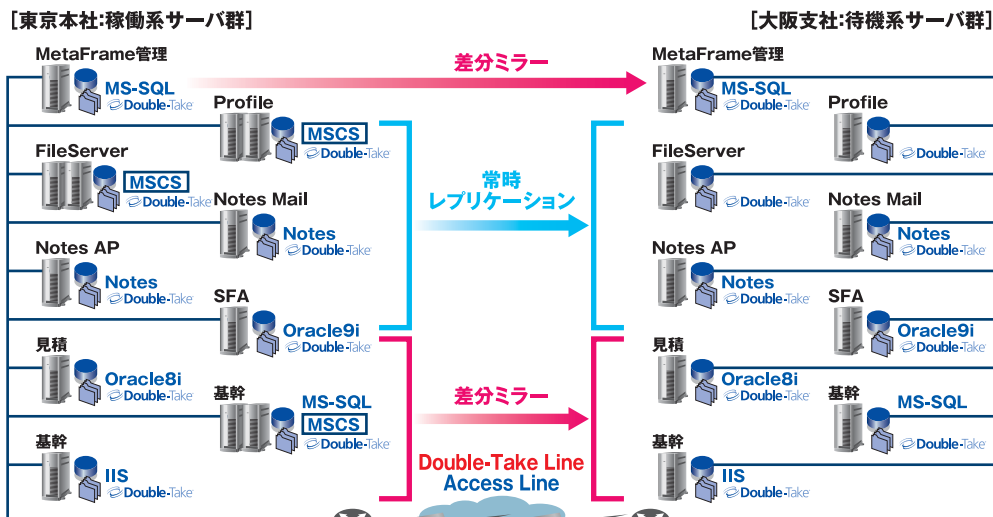
導入背景

“東京が壊滅してもお客様には迷惑をかけない”

この固い信念は、1世紀以上、機械商社として事業の継続と発展に取り組んできた守谷商會ならではのものだといえる。近年、守谷商會は、ITシステムの堅牢なセキュリティ環境を構築するため、サーバベースドコンピューティングによるシンクライアントシステムを導入してきた。その結果、日本全国の拠点や海外からのアクセスを本社ビルのサーバールームに統合することになったわけだが、もし東京が100年に一度の大震災に見舞われ、本社ビルが倒壊することになれば、その被害は日本中の仕入先・取引先企業や自治体に及ぶことになる。もちろん海外も含め、全支店での業務も完璧に停止してしまうわけだ。「歴史的な事変や大災害を

乗り越え、長年業を成してきた弊社の歴史がありますから、経営トップの判断で本社ビルの倒壊まで想定した情報システムの災害対策に着手することになりました」と語る青柳 誠氏。さらに、「本社ダウンによる対外的な賠償責任や調達業務、債権債務の把握などを十二分に判断した上での決断によるもの」という。こうして大阪支社に構築をめざしたのは、いわゆる東京本社の基幹データのバックアップサイトではない。本社から指示の出せない災害状況で、IT担当ではない大阪の経理財務セクションが待機系の基幹サーバを全て立ち上げ、業務を継続できる究極のディザスタリカバリシステムである。

■東京本社—大阪支社間を結ぶ基幹業務の遠隔地DRシステム



お客様ニーズ

多様な基幹データを、ひとつのプロダクトで保全できること

「弊社の基幹サーバはサーバごとに必要なデータ保全の要件が異なるため、それらをひとつのレプリケーションソフトでカバーするのが理想でした。オンタイムで転送しなければならないサーバデータや、日常業務に支障があるので夜間にバッチ処理しなければならないデータまであり、そういったスタイルがまちまちのデータを保全するプロダクトが必要だったわけです。機能的には、サブリメンタル、インクリメンタル、フルといった対応が可能で、ミラーリングのように常時バックアップもできる

ものです」。そう語る青柳誠氏を含め、実際の災害時には全く関与せず



株式会社 守谷商會
統轄室 情報ネットワークセクション
課長補佐 青柳 誠 氏

にサーバを立ち上げ、運用できる手軽さも求められた。Double-Takeはこうした要求を満たし、海外ばかりか日本でも多くの実績をもつ点や、データの整合性や導入コストの面でも他社製品に比べ高く評価された。

ソリューション

プロジェクトの成功は事前の緻密なサイジングに

東京本社から大阪支社へ、どのサーバのデータをどのように転送すべきか。事前の調査では、現行の基盤システムをインテグレートしている住商情報システムとCTCSPの協業のもと、13台の多種多様な基幹サーバに対してDouble-Takeの「リソースプランニングツール」をインストールし、1日単位、1週間単位のデータ量を緻密に精査。その上で転送する回線の種類や帯域幅を決定した。青柳氏曰く、「社内には各サーバごとに担当者がおり、必要な要件と設計フェーズを正確に見極められたのがプロジェクト

の可否につながったと思います」。テストでは、大阪の要員および担当課長様の判断により30分ほどで全基幹サーバの立ち上げに成功し、ほっとしました。そう話す住商情報システムの新田正明氏。今回の案件は、起案時に想定した構築期間、コスト共に下回ることができ、すべてに高い満足いただいた。



住商情報システム IT基盤ソリューション事業部
テクニカルソリューション第2部 新田正明氏

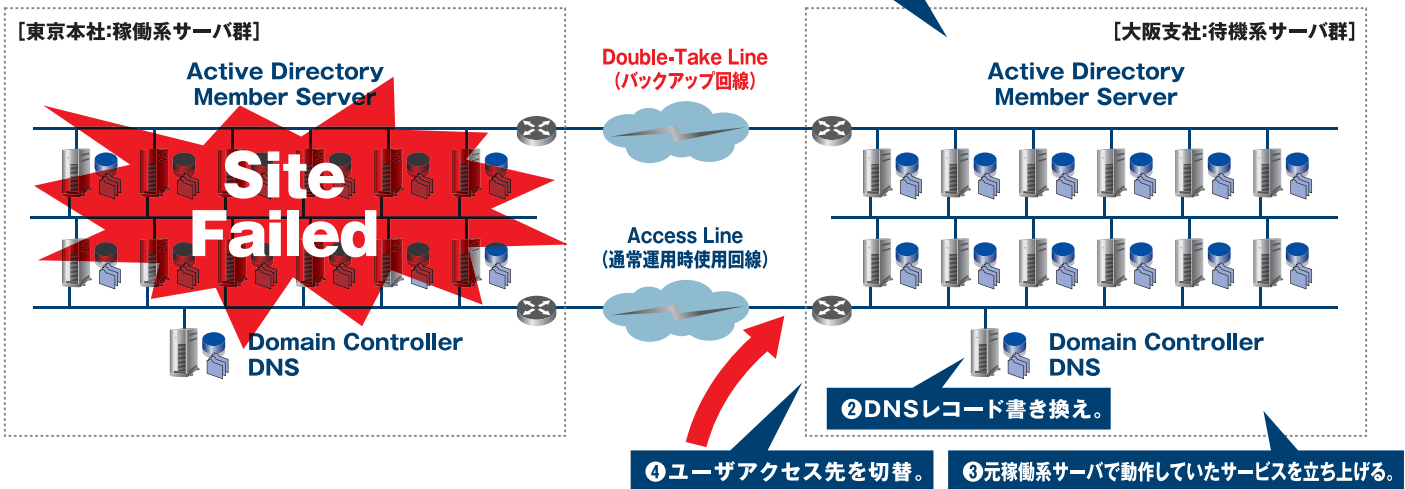
導入プロセスと展望

非常に満足のいくプロジェクト! 今後も年2回のテストを実施

本災害対策システムの検討は、2003年頃に一度CTCSPに問い合わせがあり、Double-Takeの提案する機会があった。その後いったん検討が休止していたが、2004年に発生した新潟県中越地震もあり、翌2005年7月から改めてDouble-Takeによる災害対策の検討を開始し、10月には東京本社内でサーバをセットアップ。まずはLAN上でテストとチューニングを繰り返した。12月に入り、大阪にサーバ13台を移設。構築の段階で

何度も回線を引き抜くなどの擬似テストを繰り返した。常時レプリケーションを行なうNotesやOracleなどのデータや見積りや基幹系の差分ミラーのデータも、非常に満足のゆく精度で保全され、全体としては1日前のデータ環境に戻って業務を再開できることが十分に検証された。今後本社の基幹系の拡張や更新が進んでも、大阪での新たな管理負担や人員増が生じることもなく、非常に満足のゆく結果となっている。

■約30分で待機系サーバでの運用開始



●お問い合わせは

古紙配合率100%再生紙を使用しています 環境にやさしい大豆インクを使用しています
 ※本カタログに記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。(2006.10)

伊藤忠テクノサイエンスグループ
CTCSP
CTC エスピー株式会社

本 社：〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-16-7
TEL.03-3419-9672 FAX.03-3419-9679
http://www.ctc-g.co.jp/ctcsp/

国内販売代理店
開発・製造元
Double-Take Software

開発・製造元
Double-Take Software

・ 豊 岡：TEL.03-6203-5535
・ 名古屋：TEL.052-203-2239
・ 大 阪：TEL.06-6151-8860
・ 福 岡：TEL.092-734-6251